

98 パリのパサージュと日本の商店街（2022年2月10日）

パリには、いくつもの素敵なパサージュ（18世紀末から19世紀半ばにかけて作られたアーケード付きの商業施設。フランス語で「通り道」の意。）があります。ガラスや鉄を使って建てられたパサージュは、19世紀の工業化とともに発展しました。パサージュには左右両側に店舗が並び、人々はガラスのショーウィンドーから商品を見て、買い物をすることができるようになりました。当時のパリの人たちは、パサージュを歩きながら買い物を楽しんだことでしょう。今でも当時の装飾が残るパサージュを通ると、19世紀にタイムスリップしたような気分になります。



日本にも全国各地に商店街があります。商店街には、八百屋、魚屋、文房具屋、洋服店、食堂など様々な店舗が軒を連ねています。アーケードのあるものや無いもの、小規模なものから100店舗以上が並ぶ大型のものまで、様々な形態の商店街があります。日本人の生活を支えてきた商店街ですが、1960年代以降は、一か所で買い物を済ませることができて便利なことから、スーパーマーケットで買い物をする人が増えました。さらにマイカーを持つ人が増えると、郊外に次々とショッピングモールが開業し、そちらに買い物客が集まるようになったために、商店街に足を運ぶ人がさらに減少しました。シャッター通りが増えて、商店街は活気を失っていきました。

愛知県名古屋市に、名古屋で最も長い歴史を持つと言われる円頓寺商店街があります。この商店街も買い物客の数が減り、商店街の関係者は、商店街に再び客を呼び込むために知恵を絞りました。そして、2013年から、毎年秋にパリ祭を開催するようになりました。なぜパリを取り上げたのかと言えば、このお祭りを企画した方々がパリを好きだったからということのようです。パリ祭が開催される2日間は、商店街には、パリのマルシェをイメージした雑貨やお菓子を売る露店が並び、シャンソンやアコーディオン演奏が披露され、大勢の人がパリの文化



祭りが開催される2日間は、商店街には、パリのマルシェをイメージした雑貨やお菓子を売る露店が並び、シャンソンやアコーディオン演奏が披露され、大勢の人がパリの文化

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本



を楽しみます。パリ祭の成功もあって、商店街は活気を取り戻しました。そして、パリ祭の開催を通じた縁がきっかけで、円頓寺商店街は、最も古いパリのパサージュの一つであり、パリ2区にあるパサージュ・デ・パノラマ (Passage des Panoramas) と 2015 年に姉妹商店街提携を結びました。

この2年間はコロナ禍の影響でパリ祭は行われていませんが、状況が改善して、再び円頓寺商店街がパリの雰囲気にも染まる日が訪れることを願います。そして、パリと日本の歴史ある二つのアーケード商店街が、新たな取組によってさらに発展していくことを期待しています。